

第8期第4回豊中市文化芸術振興審議会

日 時 令和4年（2022年）8月19日（金）午後3時～5時
会 場 豊中市役所第二庁舎 4階南会議室
委 員 委員：橋爪（会長）、大梶、高木、上田、山下、原、鶴身
欠席：永田、濱田（敬称略）
事務局 長坂、林、石橋、小林、原田
傍聴者 0名

[開会]

事務局○第8期第4回豊中市文化芸術振興審議会を開催する。

今回は4名の委員に来庁いただき、4名の委員についてはオンラインでの参加とする。本日は第8期の審議会の第4回目であり、前回は昨年11月に開催。今年度最初の開催となる。

（前回の振り返りと議事録の確定）

事務局○（参考資料に基づき、第3回の振り返りと議事録の確定について説明）

○審議会の意見を受け、「令和2年度文化芸術推進プラン改訂版に基づく施策実施状況」及び「令和3年度以降における文化芸術推進基本計画進捗状況指標」を確定することが出来た。改めてお礼申し上げる。

1. 令和3年度文化芸術推進プラン改訂版に基づく施策実施状況（案）について

事務局○（資料1に基づき説明）

会 長○事業の実施時期により、新型コロナウイルスの影響の大きさが違うため、データとしては参考数字になる。今後令和4年度、5年度と積み重ねていくことで補完されていくと予想されるが、その点をふまえたうえで見ていただきたい。

委 員○舞台芸術体験事業について、コロナ禍により中学生の参加校数が14校から4校に減っていることは理解できるが、小学生は25校参加しているのは何故か。

また、校数ではなく人数の方がデータとしては適切ではないか。

これは小学校と中学校で別々のプログラムか。

事務局○中学校については、申込段階では前年度と同等程度の申請があったが、開催日直前に新型コロナウイルスの感染者数が増加し、直前で多くがキャンセルとなってしまったことが原因である。小学校の開催日は比較的感染者数が多くなかったため、多くの生徒が参加できた。

指標については、確かに規模という意味では人数の方がわかりやすいので、人数に変更する。

委 員○公演回数も出した方がよい。この事業は、市の事業として行っているもので、指定管理者に業務委託しているのか。また、会場の利用料金は減免になっているか。

事務局○市の事業であり、日本センチュリー交響楽団に委託している。学校との調整があるため、指定管理者にお願いするのは難しい面がある。会場である文化芸術センターの利用料金は減免にはなっていない。

委員○学校利用について、減免制度があるかと思うが、減免分は指定管理者に渡しているのか。

事務局○指定管理委託料に上乘せし、年度末に精算する形をとっている。

2. 令和4年度文化芸術振興助成金の報告について

事務局○（資料2に基づき説明）

会長○審査を担当した3名の委員に、意見を伺いたい。

委員○まずは、コロナ禍のため仕方ない部分はあるが、申請件数が少なかった点が挙げられる。また、自分たちが好きでやっていることを発表している団体がまだ多い。『税金を使って市民に対して還元していく』事業が、上位はできているがまだ全体としてはまだ弱い印象。豊中市で文化活動をしている方々に対して、なんのためにこのような助成金をやっているのか、学んでいただく機会が必要な段階だと思う。現在行っている報告会についても、報告だけに終わらず、互いに意識を高めていく機会が必要。

委員○豊中市は音楽が強い印象がある。公金・自分たちの芸術活動・社会をどのように繋いでいけるか、を言語化して話し合いを持つことが大事だと思う。コロナ禍において、報告会をオンラインにするなど対応頂いたが、今後は交流する機会をもって互いの活動をシェアすることを試みていきたい。個人的には豊中が遠く、それぞれの実施事業を観ることができていないことを心苦しく感じる。周囲の方が見守り、応援をしていき、周りからのまなざしを作っていくことが大事だと思う。

委員○試みをやりたいという意味はあるが、どうやったらいいのか。他にどんな活動をしている人がいるのか、そういった観点すら想像がついていない人たちがいる。試みをやりたいというその積極的な気持ちを広げていくためにも、市から情報をもっと出していくことが望まれる。

会長○他の委員からも意見はあると思うが、次の案件3で今後の助成金の話になるので、その際にまとめて意見を伺う。

3. 文化芸術振興助成金の今後のあり方について

事務局○（資料3に基づき説明）今回、テーマを3つに再編し提案する。

委員○12件中9件の採択というのは、かなり採択率が高い。内容的に優れているなら問題ないが、400万円という少くない予算に対し、内容が充実している事業は少ない。また、個人リサイクルの1/2助成はありがたいが、社会包摂といった地域課題の解決は自己収益を得ることが難しく、1/2助成では無理がある。審査に関わった委員の意見があれば伺いたい。

委員○まず、応募が少ないことが大きな問題。豊中市は文化芸術に関心がある人が少ないわけではないはず。これは周知と、使いやすさの問題なので、看板を変えるだけではうまく回らないと思う。

また、地域課題を解決するという書き方については、対象地域の人々が「課題のある地域」というレッテルを貼られてしまうと感じてしまう。支援される側の視点もふまえたうえで、適切な言葉選びや使い勝手検討すべき。

音楽が多いことが良さでもあり課題でもある。クラシックをメインとしたものは、公演を行うこと自体が絶対的に良いことと捉え、「なぜこの公演をおこなうのか」という疑問を持ったことが少なかったと思われる内容もあり、「こんな素晴らしい先生が来てくださる」という趣旨でプレゼンに臨んでくる。もう少し多様な価値観を持っている人たちにどう向かって発信していくものなのか、広報面での力の入れ方が必要と感じる。

委員○地域課題の解決は、受益者負担が望めない状況で行うことが多いので、1/2助成は難しいと感じる。一方で、大阪府の助成金がコロナ禍において2/3上限に引き上げられたこともあり、豊中市がどうしていくのかは、このコロナ禍のタイミングで考えるべきとも思う。

また、今回の「芸術の新たな価値を生み出す」という看板では、芸術そのものの質に踏み込んでいってしまう傾向が強い。地域課題の解決をめざすのであれば、多様な主体が関わることや、共働を条件にする方が、文化芸術団体だけで行う事業になることを避けることができると思う。その場合でも、主体を誰が担っていくのかや、連携の仕方などを一緒に考えていく必要はあると思う。

スタートアップ事業に関しては、助成率が小さいと厳しいと感じている。今後、金額の小さな事業に対し多く助成していくという方向も考えるのであれば、この場合もまた助成率が課題になってくると思う。

委員○芸術文化というものが、「何かのために」するものなのか、という根本的な問題に立ち返っていくことになる。上田委員の言うとおおり、協働を条件にあげることはある程度やりやすくすると思う。また、時期や対象者について、ただ募集するだけでなく、事業連携のマッチングや、助成金制度について考えるワークショップなどを前段に挟むと良いのではないか。

委員○やはり(2)の「文化芸術の新たな価値をうみだすもの」が気になる。「文化芸術との協働により新たな価値を見出すもの」などが良いのではないか。その場合は、主体が文化活動団体でない場合にどこまでを対象と考えるかが課題にはなる。

会長○(1)と(2)・(3)で書き方が違う。(1)はターゲットや対象事業が明確だが、(2)(3)はわかりづらい。市役所側の意図として、音楽系以外の事業や、ストリートや公園で行う事業を求めるのであれば、それがより伝わりやすいように書いた方がいい。(2)(3)については、箇条書きで書いている内容とタイトルがかけ離れているように思う。

最近福祉の分野で「ウェルビーイング」という言葉が良く使われるが、文化芸術の分野であまり使われていない。子どもたちの創造性を育み、市民一人一人が生き生きと暮らすために必要なものが文化芸術だと思うので、(2)はそういった点を記載すると良いと思う。

(3)は若手アーティストや、スタートアップ向けの事業であればそうわかるような書き方が良いと思う。

委員○(3)は、スタートアップにも読み取れるし、やり込んでいる人たちが更なる高みをめざすために行うものとも読み取れる。どちらを意図したものか。

事務局○対象の事業としてはどちらも含めたいと考えている。表現の仕方を検討したい。

会長○今回の変更の根本的な意図としては、以前より間口を広げ、より応募しやすい制度にしたいという思いがある。

事務局○指摘のとおり。上田委員の指摘のとおり、多様な団体との協働こそが、文化芸術の新たな価値を生み出す源泉であると考え。また、藤野委員の指摘については、文化芸術を活用しての事業であれば、実施主体がどんな団体であってもいいと考える。

委員○タイトルはいったん置いておいて、それぞれのテーマにおいて、メリットを受ける人が誰なのか、応募する団体がどのような人たちなのか、活動内容や場所など、何を意図しているのかがわかると、委員の中で書き方を決められるのではないか。どんな活動、どんな人に応募してほしいか、どんな成果がほしいのかを次回までに詳しく書いてほしい。

会長○今回で決めてしまうのは難しいので、次回に持ち越しとし、本日の審議会はこれにて以上とする。次回は、第9期1回目となり、11月頃を予定している。

[閉会]

(以上)